



西東京三田会

- News Letter 34 - (2024.10.1)

西東京三田会ホームページ <https://nishitokyo-mitakai.net/>

三田会 若手会員懇談会

猛暑だ、酷暑だと言われていた今年の夏が漸く過ぎ、いよいよ本日から 10 月です。いよいよ豊穡の季節を迎える時期になりました。

今回の会員座談会は、当会の若手会員（あくまでも比較論ですが）のホープと目されている 4 名の方々にお集まり頂き、「若手会員からの目線」で、三田会のこと、ご自身の思い等々を語って頂くことにしました。

先ず、お集まり頂いた皆さんをご紹介致します・・・・鹿野純一さん（H3 文）、丑山佐枝子さん（H18 政メ院）、稲葉正和さん（H20 政）、そして宮下真由さん（H24 看）の 4 名の皆様です。どんなお話が飛び出すか、どうかご期待しながらお読み下さい。



編集委員

本日はご参集頂きまして有難うございます。どうか、当会の若手代表として、自由闊達なお話をして頂ければと思います。

先ず、自己紹介を兼ねて、当会へ入会頂いた経緯等についてお話を伺いたいと思います。

鹿野さん

それでは私からお話をさせていただきます。実は5 年程前に、当会から勧誘の葉書を頂きました。当時は、入会は「未だ早いかな・・・」と思ひまして、葉書を仕舞っておきました。それがこの度「発掘」されて、「再会」を果たした訳です。でも、決して 5 年前も、興味が無かった訳ではありませんでした。

宮下さん

私も、同じタイミングで葉書を頂戴し、その勢いで入会させていただきました。

稲葉さん

私も、全く同じです。その時頂いた葉書が入会の動機付けとなり、その後行われた「西東京市民まつり」の時に入会させていただきました。私の中では、西東京市に転入したタイミングと重なっておりました。



編集委員

宮下さんは、市民まつり直前に行われた「新入会員歓迎会」にもご出席頂きましたね。あの会合もとても楽しかったですね。



丑山さん

私は、それより一寸ばかり早い 2017 年の当会創立 30 周年記念式典へのお誘いのレターを見て、当時の多摩六都科学館館長さんの講演に誘われて参加したのがきっかけでした。入会は未だ決めていなかったのですが、入会前なのに懇親会にも出席させて頂き、皆様に大変良くして頂きました。「入会を未だ渋っているウシヤマさんです」と紹介され、その勢いで「入会します!」ということになりました。

編集委員

・・・ということは、丑山さんの場合、六都科学館館長の講演に誘われ、懇親会が「トドメ」となったようですね。

丑山さん

確かに殆ど知らない方々ばかりでしたが、女性会員の方々の接遇や、先輩方の気さくな振る舞いといった処がとても大きかったと思います。

編集委員

稲葉さんは 20 年1 月号のNL での新入会員紹介のページで、1 歳のお嬢様と一緒に写真を掲載されておりましたね。お嬢様も、もう随分大きくなられたことと思います。



稲葉さん

そうですね、皆さんのお時間が合えば、子育て世代の交流会などがあればと思っています。

鹿野さん

私も勧誘の葉書に「再会」した時に、将来のことをふと考えました。世間では、「老後 2000 万円問題」に汲々としている記事が目にはありますが、豊かな老後を送っていらっしゃる方々は必ず居るはずで、そうした情報を仕入れたいと思った時、「そうか、三田会か!」と結びついたのが実情でした。

編集委員

皆さん、夫々に三田会に対して期待されていることがあるのですね。私も、遠い昔、入会した当時のことを思い出してしまいます。



それでは次に、皆様の塾生時代に立ち返って、お話を伺いたと思います。

鹿野さん

義塾には大学から入りましたが、高校時代は部活に恋愛に充実した日々を過ごし、高3から遅れていた勉強を頑張って、恋愛に破れました。ですから同時期に三冠王とはいきませんでした。でも、部活、恋愛、勉強の3軸に満足いく高校生活でしたが、そこから先、即ち義塾時代は暗黒期でした。まだ抜け出した感がありませんでしたから、18歳以降は「余生」だと思って生きています。残念なことに、大学時代は楽しい思い出がありません。

編集委員

高校時代にそこまで頑張られたのですから、義塾時代もきっと「暗黒」ではなく、それなりの思い出もお有りのことと思います。

宮下さん

SFC（湘南藤沢キャンパス）時代、バスケット・サークルとインドネシアの健康教育活動のサークルに入っていて、それなりに充実した生活をしていました。また、他学部の授業に出席出来たことも大きかったと思います。

三田祭の期間には海外旅行に出ている、海外で塾生の方々と複数回遭遇出来たのも良い思い出です。三田祭にはそうした理由で参加出来ませんでしたが、信濃町の四谷祭の実行委員をしたことも良い経験です。そして、国家試験の前には、医学部、看護学部合同で勉強をしたことも、私にとってはとても良い経験でした。

稲葉さん

私は、大学時代に専攻と副専攻で2つのゼミで勉強出来たことが、とても恵まれていたと思います。それは、アメリカの地域文化論、そしてロシアの政治外交という領域でした。

また、第2外国語クラスでの交流も忘れられません。とても充実していたと思います。

そして、学生時代に私も何度かアメリカ留学をしたのですが、留学先にあった三田会の皆さまに大変お世話になったのも、とても思い出深いものです。



編集委員

稲葉さんも宮下さんも、大学時代は「暗黒」期ではなかったんですね。安心しました。

稲葉さんが仰った留学先の三田会・・・実は私も嘗てアメリカ某市の三田会に在籍しておりました。そのお話は、個別にまたゆっくりお話ししましょう。

丑山さん

私も宮下さんと同じようにSFCで2年間学びました。大学院棟には1人1テーブルが与えられて、プロジェクト（ゼミ）毎に集まって研究していました。恐らく、週に3~4日はそこで寝泊りして



いたと思います。学生達が作ったコンビニや、寝たい時に寝られるベッドスペースがあり、大学がシャワーを貸して下さったりと、「快適」な学生生活でした。

大学から頂いた研究助成金で、1年目アメリカ、2年目イギリスに独りで研究リサーチに行き、当時大道芸のライセンス制度の研究をしていたので、制度を使っている行政、パフォーマー、そして観客や場所を管理する方々等にインタビューしたことが、私にとってとても有意義でした。



編集委員

大学での寝泊りは、恐らくSFCならではの事なのでしょうね。皆さん通学にはかなりの時間を要していらっしゃったと思います。

丑山さん

そうですね。私も片道2時間半でしたので、大学で宿泊出来るのは有難かったです。今思うと、怖いものなしで、パッション高く、常に積極的な態度でいたように思います。

編集委員

それでは次に、当会の中でどのような活動をしたいと思われているかを伺ってみましょう。

稲葉さん

いろいろなイベントに声掛け頂いているのですが、正直言って平日の時間が取り難い状況です。私は、趣味の一つが写真なので、写真サークルの活動などをしてみたいと思います。

鹿野さん

私も全く同じ状況です。写真・作品展も興味はあるのですが、搬入に携われないので参加を躊躇ってしまいます。

丑山さん

実は、私は本年の三田会の写真・作品展に参加しました。一寸だけ勇気を持てば、道は拓けた気がします。



宮下さん

三田会には、素晴らしい方々が多くいらっしゃるのので、勉強形式の集まりが有っても良いと思います。

稲葉さん

そうですね、私は子育て世代の交流会や、同年代の交流会が浮かびました。皆さんが経験したご苦労を伺って、悩みや喜びを共有できたら素晴らしいと思います。



編集委員

若い方々ならではのお話ですね。確かに、平日の活動への参加には、仕事をお持ちの会員の皆さんには無理があります。私達も、そうしたことを頭に入れながら、皆さんに喜んで頂けるイベントを作っていきたいと思います。

丑山さん

女子会で始めたように、気軽に交流できる「お茶会」的な企画を大事にしていきたいです。三田会の仲間と映画に行き、その後感想を話し合いながらのお茶会や、キャンパス見学と食堂でのランチ会、ビアガーデン BBQ 会なんかも素敵ですね。11月に企画されているバスツアーもとても良い企画だと思います。

鹿野さん

私は、現在小田原市に本拠を置く神奈川雪友スキークラブの理事長を本年9月から拝命致しました。12月に入るとほぼ毎週雪山に居る生活なので、残念ながら三田会の活動は4~11月しか出来なくなり、申し訳ない気持ちです。



編集委員

それならば、三田会スキークラブを作り、鹿野さんに指導をして頂くのもありかもしれませんね。

当会メンバーは、皆さんから見て先輩の方が多いと思います。そうした先輩達に、皆さんは何を望まれますか？

宮下さん

先輩方への希望なんか、畏れ多くてなにもありません。私達のそばに居て頂けるだけで充分です。

稲葉さん

当会は、義塾への関わりの濃淡に関係なく、また様々な世代が参加しやすい会であればとても良いと感じています。現在も、それに近いものが作られていると思います。

鹿野さん

私の場合、入会の目的である「豊かな老後の過ごし方」を実践的に指南して頂ける会を望みます。

丑山さん

私は、先輩達にも是非若手に興味を持ち、話し掛けて欲しいと思います。そして若い方のお話を聞いて欲しいと思います。少し気後れしが





ちな若手会員に対し、「来てくれてありがとう・・・」、「ここに居て良いんだよ・・・」、「いつでも待っているからまた来てね・・・」という声掛けを頂ければ、皆臆さずに行事に参加出来るようになると思います。

編集委員

なるほど、先輩達も今以上に若手の方々との交流を行っていけるように、出来る努力を惜しむべきではないですね。

様々なご意見を頂きましたが、最後に、私達の母校である慶應義塾のどのような処を誇りに感じられますか？

宮下さん

三田会は「縦と横の繋がり」が非常に強いと思います。私達は、そうした中で多くのご縁を頂いています。そして、社会の中でも様々な分野で多くの方々が活躍されています。そうした点がとても誇りに感じます。

丑山さん

義塾で過ごし、体験したことから、塾員は「人の本質を大事にし、他人をリスペクトして、共に高め合っていく」処が素晴らしいと感じています。

鹿野さん

「3人寄れば三田会が出来る」と言われるくらい、卒業生の結束が強い処が素晴らしいと思います。でも、部外者から見ると、逆に悪く見られることもあります。漫画でも、鼻持ちならないお金持ちの大学生は、大抵塾生をイメージしているようです。でも卒業生は他者を慮って振る舞いを糺すことはありません。それだけ卒業した大学に誇りを持っているので、世間での高い評価を保つように皆が努力していると思います。そうした処が「カッコイイ」と素直に思います。

稲葉さん

皆さんの仰る通りだと思います。塾員の繋がりや強さは、本当に驚くべきものがあると思います。そしてその塾員は、経済界だけではなく、政界や教育界等各方面で活躍されています。私は、その力の源泉を誇りに思います。



編集委員

最後は稲葉さんが上手く締めて下さいました。

私も当会の中では、未だ若手の部類に入るのかもしれませんが・・・そんなことないか。

若手会員の皆様のお考えをしっかりと伺い、それを今後の会務に反映させていくことは、非常に重要なことと思っており、早くこうした会合を持ちたいと思っておりました。



本日は、ご多忙の中お時間を作って頂き感謝申し上げます。

~~~~~  
4 人の方々にお集まりいただき、忌憚の無いお話を伺うことが出来ました。しかし、私からの質問は、僅か 5 つしかありません。恐らく皆さんは、もっともっと三田会に関して、そして今後の活動に関してお話しされたいことが沢山あると思います。

NL 編集委員のお一人でもある丑山さんは、NL を受け取られた方からの意見や感想をしっかり受け止め、それを紙面に反映させたいと強く思われています。そしてより身近な三田会を作りたいという気持ちでいらっしやいます。そして、クラウン劇団での活躍も日々熱を帯び、非常に貴重な存在だと思います。



稲葉さんは、子育てと写真という発言がありましたが、是非今後の三田会でもそうした年代・世代にあったイベントを企画したいと思います。私の記憶では、確か筋トレや自転車もお好きだったかと思います。

鹿野さんは、現在持たれているスキー連盟の資格の一つ上の正指導員検定の取得を25 年に目指されています。冗談ではなく、当会にもスキー愛好家がいらっしやるかと思っていますので、是非指導頂きたいと思います。スキー愛好家をこれから目指す初老の方々も是非如何ですか。

宮下さんは、義塾を卒業後東京大学の研究室（修士）で周産期メンタルヘルスケアを研究され、不妊治療がご専門です。震災後気仙沼に通われ、被災地支援もされていました。現在は、メディカルアロマセラピーや野菜ソムリエの勉強もされており、包括的に健康問題に向き合っておられます。



このように、若手の会員も非常に多彩な顔触れです。稲葉さんの発言にもありましたが、当会は、義塾への関わりの濃淡には関係が無いと思います。「私は何も取柄が無いから・・・」と思われる方も、三田会の中で、今までご自身が気付かなかった才能を開花させられるかもしれません。そして、皆様とこれからも、楽しい三田会を創っていきたいと思います。

若手会員の皆様、本当にありがとうございました。10 年後、恐らく皆さまが会の中心として活動されていると思います。どうか引き続き頑張ってください。

(了)

Keio University





## 開催されたサークル活動等をご紹介します

2024年7月以降に開催されたサークル活動等をご紹介します。  
それぞれのサークルが活発に活動しています。  
初参加の方も多くなってきました。



### 深川・清澄白河江戸情緒を味わいながら の散歩と食事会 7月5日

7月5日深川界隈を散策しました。

深川という地名は耳にされた方も多いと思いますが、西東京に住む我々にとってはあまり馴染みのない土地と思います。

そこでまず江戸と深川について。

家康が入った頃の江戸は、城地の前は湿地、海でした（銀座、日比谷、日本橋は当時は湿地、海です）。家康は大埋め立て工事を行って江戸の町をつくり、引き続いて埋め立てたのが隅田川の向こう岸の深川です（現在の総武線の南はほぼ埋め立てのようです）。

江戸の町は大雑把に言って

- ①現在の外堀通りの内側
- ②山手線の上野駅と新橋駅を結んだ線の東側で隅田川までの地域 いわゆる日本橋銀座地区
- ③深川・本所（深川の北側）

が都会で、その外側の地域には街道沿いにあるいは寺社の周りなどに小さな町はあるものの残り  
は大名の下屋敷（別荘兼江戸屋敷用の農地）、農家が点在するような田舎でした。

江戸時代、江戸の人口は100万人で、その当時ロンドンが70万人、パリは50万人ですので当時の世界最大の都市と言われていています。100万人の内訳は、武家 50万人、町人50万人。

江戸の土地の使用割合は武家地は江戸の 70%、寺社地が 15%、町人地が15%です。

先に江戸の町を大雑把に 3 つに分けましたが、①の大半は大身武家、②と③も下級武士、寺社が多く、残りの土地に町人が密集して暮らしていました。当時の古地図を見ると、深川は約半分は大名下屋敷、蔵屋敷、寺社、残りは町人地です。

江戸・深川の埋め立てで特筆すべきは、大量に水路を造ったことです。当時、物流のメインであった水運を重視したことによると思います。銀座、日本橋の水路は埋め立てられてしまいましたが、深川には当時造られた堅川、小名木川、仙台堀川、大横川等などが残されています。この水路を利用して、江戸に物資が運ばれましたが、その一つが材木です。大火に備え、貯木場に大量の材木を蓄えていました。それが深川の木場です。紀伊国屋文左衛門はミカンで有名ですが、それは初期費用を稼いだ手段で、拡大したのは木材業です。文左衛門と競合した奈良屋茂左衛門





共々深川に居を構えています。

さて今回 訪れた先を案内します。

まず、深川不動尊 ここは成田山新勝寺の東京別院です。ここでは 毎日行われている「護摩炊き」を拝観しました。仏教語には疎いため一般用語で、且つただの観光客目線による記述となって申し訳ありませんが十名前後の僧侶による唱和、3~4 台の和太鼓、法螺貝などによる「護摩炊き」は大迫力です。私が拝見した中では最上の「護摩炊き」と確信しています。



是非、一度拝観されることをお勧めします（拝観無料、平日は11、13、15 時から約 30 分間）。

次にすぐ隣の富岡八幡宮を拝観しました。

富岡八幡宮の「深川八幡まつり」は江戸三大祭りのひとつで神輿に水を掛け合うので有名です。境内には重さ5 トン、24 キロの純金と数千個の宝石を使ったという日本最大の神輿が2基見学できるように収納されています（佐川急便の佐川清氏が平成3 年に奉納したもの、当時費用は 10 億円との噂）。更に境内には数多くの旧跡や碑銘があり、大日本沿海輿地全図を作った「伊能忠敬の碑」



（忠敬は深川に住み、地図作成の旅に出るに当たって富岡八幡宮に成功を祈願した由）、「歴代横綱の碑」（初代の明石志賀之助から現在の 73 代照ノ富士の歴代横綱名が刻印）、国産第一号の都内最古の鉄橋「八幡橋（築地本願寺近くにあった旧「弾正橋」）などを見学しました。



更にすぐ近くにある「三十三間堂跡の碑」を訪ねました。江戸時代、江戸にも三十三間堂があったのです。江戸初期、京都の三十三間堂を模して浅草に建てられた初代が焼失したため、元禄期（1700 年）に碑のある所に再建されました。明治の初め取り壊されたようですが、江戸の古地図にも三十三間堂と大きく記載されています。

三十三間堂跡から数分で平久（へいきゅう）川に出ます。

ここも埋め立て時の水路のひとつです。平久川沿い、更に交差する仙台堀川沿いに海辺橋まで約1キロを歩きました。当日の東京の最高気温は35.5 度と記録されていますが、この川沿いの小道は桜の枝が日除けの役割を担ってくれ、照り返しのない土の道でしたので乗り切ることができました。平久川に架かる鶴歩（かくほ）橋、仙台堀川に架かる亀久（かめひさ）橋とともに、関東大震災後の現存震災復興橋梁で、昭和初期の美意識が感じられる美しい鉄製トラス橋です。

公園で暑さを避けながら、皆でお団子等を食べ、海辺橋からは、熱中症を回避するためゆっくり歩いて江東区立「江戸深川資料館」を訪ねました。ここには地下と 1 階を使った大空間に、永代橋のたもとにあった「佐賀町」界隈が再現されています。商店、船宿、火の見櫓、町人の長屋などが見事に再現されており、当時の庶民の生活ぶりがよく理解できます。



是非一度は訪ねていただきたいお勧めポイントです。

なおここでは、ボランティアの方に丁寧に説明いただきました。

消火用の天水桶（天水桶というネーミングに江戸人の心意気が感じられます）について大名屋敷の天水桶には消火用に加えてもう一つ役割があった由。地震の際、そこから水が零れ落ちた



からお城に駆け付ける揺れであると判断する目安としていた由。勉強になりました。



通常の気候であればさらに足を延ばすところですが、天気が良すぎて 35.5 度の炎天下、無理して熱中症より、ビールを選ぶことにしました。

そして本番のグルメは座敷できつかったが、まず記念写真。海鮮料理は新鮮、1 時間半の制限時間を大いに飲み、語り合いました。

今回の参加者は、井上京子・牛島康朗・大内俊・小笠原寿男・皆川雅紀・樋口明朗・横田均の7名でした。

皆川雅紀 (S49 政)

皆川さんは歴史能力検定2 級、そして城郭能力検定1 級を有していらっしゃいます。こうした散策の折には、とても素晴らしい解説をして下さることも私達にとって、大変有難いことだと感じます。(編集委員)

## カラオケ会 7月9日

## 月例

7月9日(火)、2024年7月度月次定例会です。連日熱中症警戒アラートが出続けているなか、ここは快適です。カラオケの歌は昔のラジオや初期テレビで流されていたものとは違います。どうもこういうカラオケ会で参加者は各人歌える歌を増やしていくようです。リモコンの使い方や曲の吸収力も違う、こういうカラオケ会への参加の場数が反映しているようです。



参加者は牛島康朗、大内俊、西野弘文、樋口明朗、皆川雅紀の今回も5名でした。

樋口明朗 (S43 経)

## ブルーベリー摘み会 7月28日

熱中症警戒アラートが出続けている猛暑日のさなかですが今年も実施されました。7月28日(日)、東久留米三田会元会長の野崎陽一さん宅です。15時集合ですがまだ陽は高く汗ばみます。西東京三田会(17名)・小平三田会(1名)と何名かのお子様を加えての同伴者合わせて37名が参集しました。西東京三田会会員は大内俊、大野一美、鎌田敏弘、栗原幸雄、佐藤貢一、鹿野純一、篠崎哲雄、西野弘文、原洋一、樋口明朗、堀進、宮下真由、宮本敬一、森茂樹、横田均、吉川潔、渡辺康生でした。



樋口明朗 (S43 経)





## ブルーベリー摘み会に参加して

今年度新入会の鹿野と申します。前回の「第3回散策の会（野火止編）」に続いて、今回参加した感想を以下に述べます。

まず野崎さんの家屋・敷地・畑の広大なことに驚きました。高さ20mを超える木々がたくさん生えています。家の敷地内に木が立っていることは珍しくないと思いますが、家屋を超える背丈の木がばんばん生えている家はそうそうありません。野崎さんは「江戸時代からの土地で...」「駅から遠くて...」と謙遜されていましたが、これを代々維持してきたのは凄い労力だなと感じました。



体温を超えるような暑さの中で、畑に移動して摘み取り開始。私は妻と参加したのですが、「個別にバケツを持っていたほうが便利ですよ」と野崎さんから言われて、一人一つ持って畑に入りました。たくさん木があり、よく見ると果実の形が違います。球形のものもあれば、みかんの



ような楕円形のものもあり、また酸味の多い少ないが決め手で味わいも異なりました。夫婦で几帳面なのか、小さな枝が入らないように一粒ずつ摘み取っていきましたので、30分ほど経ってもそれぞれバケツに半分も入っていない状態でした。

新入会だと察してか、篠崎さんや樋口さんをはじめ多くの方が「楽しんでますか?」「穫れてますか?」と聞いてくださいます。ありがたいことです。宮本さんは私たちのバケツの中を見て、この人たちは効率が良くないと考えたのか、「こうやってみてください」と言いながらバケツを枝の中に突っ込んで実を次々と落としてみせました。なるほど！確かに細かい枝にこだわってチマチマと一つずつ摘んでいくのは効率が悪いですね。見よう見まねでやってみますと、一気にたくさん穫れました。ただ、「ブルーベリー摘み」という風情は薄まり「農作物の収穫作業」といった感じになりました。

後半は宮本式で収穫量を稼いだのですが、私は手の痛みに突然襲われました。葉っぱの裏に毛虫がいて、それに触れてしまったのです。体長1cm くらいの大きさですが、蛍光イエローで毒々しいこと！初めてお目にかかる毛虫でした。野崎さんからは「下に落として踏んでください」と事前に言われていたので、触らずに落下させることに難儀しながら駆除しました。来年の参加時には毛針から手を守る薄いゴム手袋も必要ですね。あるいはピンセットがあると毛虫を掴むのに便利かもしれません。

生で食べる量と、冷凍して保存できる量を勘案して、ほどほどに終えたのですがそれでも収穫量は2kgを超えました。冷凍用は細かい枝を取って



ジップロックに入れて、フリーザーに入れました。それを毎朝ヨーグルトに載せて蜂蜜と一緒に食べています。まだまだ無くなる心配はなく、余韻が長く続く行事だなあと感じています。野崎さんや幹事の方々のお膳立てがあつてこそこの行事ですので、いろいろとお世話になりました。ありがとうございました。

鹿野純一 (H3文)



## カラオケ会 8月6日

8月6日、通常は月の第2火曜日ですが 13日はお盆、特別にこの第1火曜日となりました  
外は相変わらずの熱中症警戒アラートが続いていますが、冷房が効き、快適な暑気払いです  
6人の参加者が 46曲を歌い切りました。

参加者は牛島康朗、大内俊、西野弘文、樋口明朗、皆川雅紀、宮本敬一の6名でした。

樋口明朗 (S43 経)



## 麻雀の会 8月25日

麻雀会で初めて役満ができました！

本日の参加者は、伊勢尚一、稲月喜一、牛島康朗、栗原幸雄、佐藤貢一、添田由夫、高梨勇一、原護、原洋一、樋口明朗、堀進、森茂樹、横田正光の13人

成績は、優勝：高梨勇一

2位：森茂樹

3位：稲月喜一 の各氏で、今回初めて役満賞が高梨さんに贈られました。



←こちらが今回高梨さんが麻雀会で初めて実現させた役満「四暗刻」です。

樋口明朗 (S43 経)

## カラオケ会 9月10日

9月10日、今回は7名、4月度の13名後は5名・6名が続いていましたが回復です

参加者は牛島康朗、大内俊、高梨勇一、西野弘文、樋口明朗、皆川雅紀、宮本敬一の7名でした。

7名で 42曲、少し時間オーバーしましたが歌いきりました。



樋口明朗 (S43 経)





## 今後のサークル活動等を紹介します

今後予定されているサークル活動等をご紹介します。  
 興味がある活動はありましたか？面白そうだなというものがありませんでしたらぜひお越しください。  
 お子様連れなどご家族で参加できる活動もたくさんあります。  
 みなさん、気になる活動があったら要チェックですよ！  
 どの活動も気軽に参加できるものばかりです。みんなで秋を楽しみましょう!!

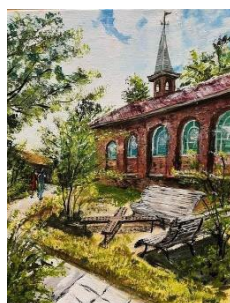
## 写真・作品展 9月30日～10月5日

### 第19回西東京三田会写真・作品展

日時：令和6年9月30日（月）～10月6日（日） 10：00～17：00

会場：西武柳沢駅南口 柳沢公民館 1階ロビー

昨年に引き続き西東京三田会の会員やその家族（お子さんやお孫さんも）の様々な作品を展示します。水彩・アクリル・油彩・日本画・版画・写真・立体造形・木彫など40点以上です。今回も早稲田大学西東京稲門会・慶應義塾大学小平三田会・杉並三田会・西東京市日中友好協会などから多数のご協力をいただき、一般市民など地域社会の方々とも作品を通して交流を深めたいと思っております。会員の皆様にはぜひ来館され、作品をご覧いただきたく、お待ち申し上げます。







## カラオケ会 10月8日、11月12日

月例

毎月定例のカラオケ会が下記日程で開催されます。  
初参加のみなさまの参加も大歓迎お待ちしております。  
みなさんと一緒に楽しいひとときを過ごしましょう！

☆10月8日（火）16時から 19時まで  
☆11月12日（火）16時から 19時まで  
場所：スナック「JJ」  
会費：3,000円



参加希望の方には、会場の詳しいご案内（ルートなど）を改めてご連絡いたします。

参加希望、お問い合わせの方は[西東京三田会事務局](https://www.nishitokyo-mitakai.com)にお知らせください。

連絡先：西東京三田会事務局 [nishitokyo.mitakai@gmail.com](mailto:nishitokyo.mitakai@gmail.com)



## 麻雀の会 10月13日

令和6年5回目の麻雀の会です。  
会場はいつものPジャンで開催する予定です。  
参加希望の方は幹事へご連絡ください。

日時：10月13日（日）13時から17時ころまで

場所：西東京郵便局北側の「Pジャン」

幹事：栗原幸雄、原護 090-8807-7508 [hara.mamoru08414@gmail.com](mailto:hara.mamoru08414@gmail.com)



## 連合三田会大会 10月20日

今年も連合三田会大会に参加します。拠点ブースを設けます。  
「西東京三田会」の幟旗を探してお立ち寄りください。  
西東京三田会の仲間だけでなく、旧友に再会できるかもしれません。  
みんなで歓談しましょう！

日時：10月20日（日）

場所：日吉キャンパス



写真は昨年の様子です

## 散策の会「払沢の滝へ」10月27日

### 手打らあめん嗜好と払沢の滝見学

表題の企画を散策の会で行うことになりました。

今回は紅葉の季節に檜原村の軽めの散策と、地元で美味しいと評判の手打らあめん屋さんでの打ち上げを楽しんで頂く企画を計画しました。

散策としては約2.5キロ程度と健脚の方にはご不満があるかもしれませんが傾斜地歩行があり、多少足腰の弱い方々にとっては100%の散策量です。

下記のように実施いたしますので是非ご参加ください。





記

1. 日時 10月27日 (日)
  2. 集合場所・時間 拝島駅 JR 五日市線改札前 10時30分
  3. 行程 ① 西武新宿線 田無→拝島 10:01→10:29 または 9:41→10:09  
(東伏見・西武柳沢・花小金井でお乗りの方は上記にご対応ください。)  
[合流集合: 拝島駅の JR 五日市線改札前]  
② JR 五日市線 拝島→武蔵五日市 10:42→10:59 (または10:20→10:37)  
③ 西東京バス 武蔵五日市→払沢の滝入口 11:32→11:54  
[払沢の滝まで往復散策] 往復見学買い物 (檜原とうふ ちとせ屋) 90分  
④ 手打らあめん「たちばな屋」へ移動散策 15分 (13:30までを目標)  
[嗜好懇親]たちばな屋で手打らあめん・川魚塩焼 など  
⑤ 西東京バス 武蔵五日市行 15:05 または 15:25  
[間に合う交通手段で帰途につく]
4. 参加連絡のお願い  
たちばな屋は予約とれませんが、事前に人数連絡したく、10月20日までに下記へ願います。  
樋口明朗 090-1760-4823 [ar-higuchi@jcom.home.ne.jp](mailto:ar-higuchi@jcom.home.ne.jp) [akrh\\_0715@au.com](mailto:akrh_0715@au.com)
5. 交通費はご用意ください。嗜好懇親費は割勘にいたく 2000~2500 円ご用意ください。

以上

お問合せは上記樋口または、原洋一 080-6619-0171 [nonno08@m3.dion.ne.jp](mailto:nonno08@m3.dion.ne.jp) へ

ご参考

\*払沢の滝 (ほっさわのたき): 東京都で唯一日本の滝百選に選ばれている落差60m の滝です。

滝つぼの傍まで行くと迫力満点の滝を見ることが出来ます。

\*檜原豆腐“ちとせ”: 地元で美味しいと評判の行列が出来る豆腐屋さんです。お土産に最適です。

\*手打らあめん“たちばな屋”:

昭和 21年創業の老舗本格手打ちラーメン屋さんで都心からも食べに来る美味しいと評判のお店です。川魚塩焼、一口餃子等のつまみもありお酒を楽しみながら打ち上げを楽しめます。



散策の会について

類似サークルにハイキング会や歴史散歩会等がありましたが、歴史散歩会を歴史とか市内域とかの制約を外して、①軽く歩く、②途上の参加者相互親睦を重視する、③昼食懇談会を取り込む、等の観点で継承しています。

ハイキングとかウォーキングの観点からはご不満もあるかもしれませんが、体力弱者にもご参加いただきたく考えているものです。



## ゴルフ会 10月29日

### 第39回西東京三田会 ゴルフ会のご案内

(第5回早慶校友ゴルフ会のご案内)

#### ゴルフ愛好家の皆様

今年の夏もまた猛暑が予想されていますが、いかがお過ごしでしょうか。当会ではゴルフ会の活性化を図るため、2022年秋の第35回ゴルフ会より、西東京稲門会様と一緒に高坂 CC と飯能グリーン CC を使って交互に開催しております。そして多くの方々にご参加いただき楽しく賑やかなゴルフ会となっています。

次のゴルフ会は下記の通り、高坂 CC に於いて「第39回西東京三田会ゴルフ会」(第5回西東京早慶校友ゴルフ会)として開催いたしますので、奮ってご参加下さい。初参加の方も大歓迎です。



#### 記

1. 日 時 2024年10月29日(火)、**受付に8:15まで**にお越し下さい。  
**8:45岩殿コーススタートハウス前に集合願います。(朝礼を行います)**  
クラブハウス前テラスよりバスで岩殿コースへの移動に約3分掛かります。  
(移動の際、必要な方はパター/アプローチクラブをお持ちください)  
ご来場の際はジャケットの着用をお願いします。
2. コース 高坂カントリークラブ・岩殿コース  
〒355-0047 東松山市高坂1916-1 ☎0493-34-3311
3. スタート時間 岩殿コース アウト、イン第1組 9:17 同時スタート 各4組、計8組  
昼食は岩殿コースレストラン、パーティはクラブハウスコンペルームとなります。
4. 会 費 4,000円…朝、受付カウンターでいただきます。パーティ費及び賞品代含む。  
(パーティは軽食・ソフトドリンク・コーヒー付き。ただし、アルコール類等は各自精算をお願いします。)
5. プレイ費用(各自精算) 17,500円(プレイ代、キャディ・乗用カート付、ランチ代別)  
○70歳以上の方は、利用税免除(1,100円)があります。証明書提示必須  
○キャンセル料 前日・当日…2,500円





6. 競技方法 新ペリア (ダブルペリア) 方式  
 7. 賞品 優勝 準優勝 3位 4位 5位 7位 10位 15位 20位 25位 30位  
 BB賞 NP賞 DC賞 ベスグロ賞 など

8. 組合せ 当日受付時に配布

#### 9. アクセス

○電車… (電車利用の方はその旨を参加申込書に記載下さい)

(1 例) ひばりヶ丘発6:39→所沢6:49/所沢発6:59 に乗換→新所沢7:03/新所沢発7:04 に乗換→本川越着7:20…本川越駅西口より徒歩7分で(東上線)川越市駅川越市駅発7:33→高坂着7:51 高坂駅前クラブバス8:00 発(所要5分)

(2 例) 田無発6:40→新所沢着 7:03 以下(1例)と同じ

○車…関越自動車道 坂戸西スマート ICから、または東松山 ICで下りて少し戻る形で高坂へ

#### 10. 申込み締切日: 8月31日(土)

参加申込み、お問い合わせは下記にて森までお願いします。

e-mail: [smah-mori@nifty.com](mailto:smah-mori@nifty.com) 携帯:090-8963-1893

なお当日大雨予報等がある場合、2日前の夕刻、幹事から参加者にご連絡を致します。

ご連絡がない場合には実施する前提となりますので宜しくお願い致します。

問い合わせ先: 西東京三田会 ゴルフ会幹事 宝井 (090-2414-5454)、森

以上

## 西東京市民まつりに出店 11月9日・10日

今年も西東京市民まつりに出店します。

市民まつり来場者に西東京三田会をアピールして新入会員を募集します。

ブース内はみなさんとの懇談の場所です。

お気軽にお立ち寄りください。

また、当日の展示物や催し物のアイデアも募集しています。

当日は寄贈いただいたおそろいのブルゾンを着てみなさんをお待ちしています!

日時: 11月9日(土)

11月10日(日)

場所: 西東京いこいの森公園

幹事: 西東京三田会 事務局 [nishitokyo.mitakai@gmail.com](mailto:nishitokyo.mitakai@gmail.com)

西東京三田会 事務局 担当 横田均 070-4069-8946 [yokokinhello@yahoo.co.jp](mailto:yokokinhello@yahoo.co.jp)







## 山梨バスツアー 11月13日



少しずつ秋の気配を感じるようになってきましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか？

今年の夏も例年以上に暑く屋外での活動には注意が必要でした。そこで屋外での活動がしやすくなる秋にみなさんと楽しめる企画を考えました。

【特別企画】山梨バスツアーです。

山梨は西東京三田会原会長のご出身地であり、おいしいお酒や食べ物、フルーツがたくさんあります。

この企画は貸し切りバスでワイナリー見学や日帰り温泉、紅葉などをめぐる日帰りツアーです。みなさんと楽しい一日を過ごせるように通常のバスツアーにはないアレンジを施しています。

ご家族の方も一緒に楽しめるようにいろいろなプランを考えています。

ぜひご家族のみなさんでご参加ください。

### 記

日程：11月13日（水）8時頃出発、18時頃解散

行程：甲府、大月近郊にて、ワイナリー見学（ワイン試飲）、日帰り温泉、昼食、その他

乗車場所：田無駅ほか複数個所を想定

費用：13,000～15,000円程度を想定

参加人数の多寡により料金が若干変動しますことをお含みください。

募集定員：25名 ＊貸し切りバスの関係で**定員になり次第、締め切り**といたします。

参加ご希望の方は、西東京三田会事務局まで参加者のお名前をお知らせください。

ご家族でのご参加も大歓迎です！

現在、業者と打ち合わせながら企画を進めています。

詳細が決まり次第、改めてご案内いたします。

お申込み・お問い合わせは下記へ



西東京三田会 事務局 [nishitokyo.mitakai@gmail.com](mailto:nishitokyo.mitakai@gmail.com)

西東京三田会 事務局 担当 横田均 070-4069-8946 [yokokinhello@yahoo.co.jp](mailto:yokokinhello@yahoo.co.jp)



## 健康のページ

### 新型タバコの危険性



中村邦彦 (H3医)

近年、街中で新型タバコの宣伝や販売店をよく見かけるようになりました。実際、日本において喫煙率は年々減少傾向にあります。新型タバコについては増加傾向にあります。新型タバコと言われるものには、タバコ葉などを加熱、抽出したエアロゾルを吸う加熱式と、ニコチンなどの入った液体を加熱し発生したエアロゾルを吸う電子式があります。海外では電子式の流通が多いのに対し、国内では IQOS などの加熱式の流通が多くなっています。新型タバコメーカーは紙巻タバコと比較して有害物質 9 割カット、副流煙も出ないなどと大々的に宣伝していますが、実際の健康への影響はどのようなのでしょうか。最近の調査では、確かにメーカーの言う通り大幅に減少している有害物質もあるが、ホルムアルデヒドやニコチンなどほとんど変わらないものもあるとしています。特に依存性、毒性の強いニコチンの含有量が変わらないのであれば、健康への影響は大きいと言わざるを得ません。細胞傷害性の研究でも紙巻きタバコと加熱式タバコの蒸気はどちらも同様に細胞傷害性が高かったと報告されています。したがって、加熱式タバコは紙巻タバコと同様に肺組織の破壊につながり、慢性閉塞性肺疾患や肺がん、肺炎などの致死性疾患や喘息リスクの上昇を招く可能性があるという結論づけられています。また副流煙についても加熱式タバコは煙が視認しにくいだけで受動喫煙の危険性は減らないとされています。新型タバコの間違った情報の流布により、海外では若年者の喫煙の増加、喫煙率減少の停滞が大きな問題となっています。紙巻タバコから一旦新型タバコに切り替えることによって、その後の禁煙がしやすくなるという話が一時期ありましたが、それも現在では否定されています。有名なタバコメーカーであるフィリップモリス社のCEO はBBC 放送のインタビューで新型タバコを製造して紙巻タバコから喫煙者を誘導することによって多少世界の健康改善に貢献していると話していましたが、全くの詭弁であると断罪されていました。国内でも、新型タバコは紙巻タバコより安全であるとの誤解がかなり広まっている感じがあります。量販店では健康グッズのコーナーの隣で堂々と販売されています。糖尿病、心疾患、動脈硬化を持つ方から診察時に「健康のために加熱式タバコに変えました。」と言われることも少なくありません。国内でも新型タバコへの広告規制が望まれるところですが、広告の美辞麗句に惑わされないことも必要です。



## 西東京三田会 会員インタビュー

今回の塾員対談は、西東京三田会の設立メンバーのおひとりで、会長としても尽力されてこられた坂口光治さん（S55 経）をお招きし、西東京三田会への思いをご紹介させていただきます。

**編集委員**：お忙しい中、お時間をいただき、どうもありがとうございます。本日はよろしく願いいたします。

**坂口さん**：私事にて恐縮ですが、今年 8月に喜寿 77歳を迎えました。40年にわたる西東京三田会の歴足を振り返るよい機会だと感じています。

**編集委員**：喜寿おめでとございます。お祝いの席を設けなくてははいけませんね。それでは、学生時代から振り返って思い出や印象に残っているエピソードなどをお聞かせいただけますか？

**坂口さん**：1967年に電子学園を卒業して、20歳で助手、22歳で教員となりました。37歳まで時代の先駆けとなるコンピューター教育をしてきました。日本で初めての情報学部情報処理科の開設により、多くの学生が入学し、喜びと遣り甲斐を体感しました。しかし他方で大きな社会的責任と矛盾を痛感した。

**編集委員**：大きな社会的責任と矛盾を感じておられたのですね。

**坂口さん**：その回答を得るため、1971年24歳で慶應義塾大学（通教）に入学するとともに、28歳で教職員組合を結成しました。初代委員長を務め同志と「教育環境の改善」に取り組みました。システム論を教えるためには「5W1H」を思考することが必要であり。経営事務管理論を教えるためには経営学・経済学の知識が必須でした。他方、組合のリーダーとしては憲法や労働法の学習が不可欠でした。

**編集委員**：お仕事を続けながらの勉強は大変だったことでしょうか？

**坂口さん**：そうですね、大学（三田）では、北原勇先生の弟子で海老原譲治さんに講師をお願いし「自主ゼミ」を組織し「資本論」を輪読・合宿（約5年間）もしました。異業種の勤労学生との「半学・半教」での学びと交際は生涯の宝です。1977年日吉での真夏の体育実技の日長男が誕生したのは印象に残る思い出です。





**編集委員：**ご子息誕生の思い出はとても印象的ですね。他にも印象に残っているエピソードはありますか？

**坂口さん：**卒論のテーマは「現代日本資本主義分析」で1980年9月卒業式（翌年3月日吉の記念館）で石川忠雄塾長から「優秀表彰」を授与されました。様々なことが脳裏に去来し感涙!!これも印象に残っている思い出です。学習と教育実践、組織活動、「人間交際」、感動と感謝が、その後の人生の選択や決断・挑戦に繋がっていると思います。



**編集委員：**卒業式の思い出、感動的ですね。組織活動、「人間交際」と挑戦といえば、坂口さんは西東京三田会（田無三田会）の設立メンバーのおひとりだとお聞きしましたが、設立に至った経緯などを教えていただけませんか？

**坂口さん：**1984年9月、16年間の教員生活に区切りをつけ、翌年7月に行われる都議会議員選挙に挑戦することになりました。自らの理念・政策を「人間都政」としてまとめ、田無市・保谷市・小平市の市民の皆様に伝えるため、地元市議との地域回りをすることが日課でした。その地域活動の中で、「30周年記念誌」「年表」に記載されている齋藤達氏、増田純一氏、齋藤毅氏、田中清氏など、後に「設立3人衆と初代会長」となる多くの塾員と面談する機会を得ました。

**編集委員：**ひとりひとりの塾員の方々とお会いになっていたのですね。

**坂口さん：**そうなんです。そのときの塾員とその家族の対応は温かく「地域の三田会の設立」の話をする、皆熱心に耳を傾けてくれました。その時に稲門会（良きライバル）が田無市、保谷市にあることも伝えました。

**編集委員：**稲門会はそのときすでにあつたのですね。そうすると三田会も！という気持ちになりますね。

**坂口さん：**そうなんです。1985年、増田純一氏の発案で「若き血」が結集して「希望の明星」が輝き出したんですよ。それを支えたのは齋藤毅氏でした。振り返ると、私は「触媒」「伝道者」の一人でした。

**編集委員：**みなさんお気持ちがひとつになって三田会の設立に至ったんですね。

**坂口さん：**おっしゃるとおりです。塾員の熱い思いが三田会結成に結実して、点が線となり面に広がっていったと感じています。

**編集委員：**みなさんの熱い思いが三田会設立を実現したのですね。





坂口さん：1985~1987 年は、三田会の設立に向けての「準備期」であったが、増田純一氏（元商工会長）と斎藤毅氏（都庁OB・商工会事務局長）が連携し、塾監局からの塾員名簿を入手して、勧誘に取り組み「名簿・会報」が作成されました。事務所は田中清氏の会社として田無三田会が始動しました。

編集委員：田無三田会が産声をあげたわけですね。田無三田会の活動での思い出や印象に残っているエピソードはありますか？

坂口さん：1988 年、私が都議1 期目の時、初代会長（故）斎藤達さん（元損保会社役員・交詢社中）の勧めで銀座の交詢社の午餐会で「東京都政の課題と展望」の講演をさせていただきました。座長は高村象平先生であり、結びの言葉は「実践あるのみ」であったのを今でも鮮明に覚えています。

編集委員：その後、保谷も加わることになったのですね。

坂口さん：そうです。1994 年「田無・保谷三田会」の初総会が開催され、会長に増田純一氏（旧田無市）、副会長に市川昌夫氏（旧保谷市）が選任され、新たな船出となりました。2001 年西東京市が誕生したが「西東京市三田会」への円滑な移行ができたのは、この先見的な取り組みの賜物でしょう。

編集委員：西東京市が誕生する7 年も前からとは、まさに先見の明ですね。

坂口さん：2001 年奥村栄吉（5 代目）会長が就任しました。強いリーダーシップを発揮され、東久留米三田会、小平三田会、東村山三田会が発足し、北多摩北部の地域連携の架け橋となりました。

編集委員：東久留米三田会、小平三田会、東村山三田会とは今でも互いに交流がありますね。諸先輩方が地域連携の架け橋を作ってくださいのおかげですね。地域連携といえば市内の小中学校との連携がありますね。

坂口さん：2005 年に私は西東京市長に就任し、高梨勇一（6 代目）会長が就任しました。そして小学6 年生の社会科見学についての高梨会長の提案で「ANA 機体整備工場見学の支援」が実現しました。中野秀夫さん、中田勲さん、会員の熱心かつ献身的な協力により 10 年を超え、三田会の「社会貢献」のモデルとなりました。おそらく「生涯子供たちの心に残る体験」となったに違いないと思います。







**編集委員**：私も ANA 機体整備工場見学に同行したことがあります、これはとてもよい取り組みでしたね。

**坂口さん**：他にも写真作品展、HP 開設、観桜会、日中友好協会、稲門寺子屋など思い出は尽きません。

**編集委員**：その後、坂口さんは会長に就任なさいますよね。

**坂口さん**：創立 30 周年記念事業の年度、高橋信一（10 代目）会長からの私への指名・推薦ありました。決め句は「あなたしかいないでしょう」。公職にあった28 年余の間（都議5 期20 年、市長 2 期 8 年）陰に陽にお世話になってきた背景を考えると受けざるを得ないと覚悟・決断しました。

**編集委員**：創立30 周年記念事業では記念誌を発行しましたね。

**坂口さん**：テーマは「温故創新 共に祝おう 記念の一日」。渡辺康生（8 代目）会長が編集委員長となり、樋口明朗副幹事長を含む10 名の委員が記念誌の発行にあたり、当三田会の歴史を記録した記念誌が完成しました。記念行事は、高橋信一幹事長を中心に、会員の主体性と塾員の持てる力が見事に結集・融合「ワンチーム」となり、「思い出に残る」感動的で素晴らしい「記念の一日」となりました。ご協力いただいた関係各位に、心から敬意を表し感謝申し上げます。

**編集委員**：坂口さんから会へブルゾンを寄贈いただきました。どうもありがとうございました。ブルゾン寄贈に至る経緯や思いなどをお聞かせいただけますか？

**坂口さん**：コロナ禍後の活動再開にあたり、西東京三田会への感謝・共感・協働の輪へのエールを送りたいと考えました。2023 年夏の甲子園で慶應高校が仙台育英高校を破りました。さらに、明治神宮野球大会では慶應義塾大学が青山学院大を破り4 年ぶり5 回目の大学日本一となりました。これらの試合を見て「西東京三田会のユニフォームがあったらいいな」と思うようになりました。また、素晴らしい「出会いと学び」



「人間交際」の場を与えてくれた慶應義塾への感謝もありました。ワンチームのマインドの醸成と、西東京三田会の魅力の発信と入会者の獲得に役立てられ、三田会らしいスマートな装い、絵になる（インスタ映えする）装いになればよいと考えデザインしました。多くの市民が集まる市民まつり（2 日で最大20 万人余）で塾員や市民へのPR や他校との交流に活用してもらえよう願っています。



**編集委員：**市民まつりやお花見会等で係の者が着用しております。一体感を感じられ、坂口さんの思いはしっかり伝わっていると思います。

今後の西東京三田会の活動に望むこと、期待することはありますか？

**坂口さん：**まずは「初心を大切にしよう」です。そして西東京三田会の設立目的（本会は、会員相互の親睦と相互扶助を図るとともに地域社会に貢献することを目的とする）、慶應義塾の創立目的（慶應義塾は単に一所の学塾として自ら甘んずるを得ず、その目的は、我日本国中における気品の泉源智徳の模範たらんことを期し、之を實際にしては居家処世立国の本旨を明らかにして之を口に言うのみにあらず、窮行実践以て全社会の先導者たらんことを欲するものなり）、交詢社の設立目的（明治初期、福沢先生の主唱により創られた、日本最古の社交機関であり「詢」はまことの意。互いに誠意を尽くして「人間交際」を親密にすること）を忘れずに。また、楽しく集い、互いに学び、喜びと困難を共有して社会に役立つ活動を期待しています。

**編集委員：**最後に、西東京三田会の会員みなさんに伝えておきたいことはありますか？

**坂口さん：**通貨は時代を映す鏡か？日本国通貨（1万円札）が聖徳太子、福澤諭吉から渋沢栄一にかわり、一抹の寂しさを覚えます。「冠位十二階・和の尊重」、「天の下の平等・学門のすゝめ」から「論語と算盤・儒教と資本主義」への変遷とも見えます。世界最高の技術で印刷された1万円札。この渋沢栄一の残した言葉に「夢七訓」があり、その結語に「幸せを求めるものは夢なかるべからず」とあります。夢とビジョン（ドリーム&ビジョン）を大切にしたいと思います。温故創新（地球規模で考え、地域から行動をしよう）という考えをもっています。現在「都友（都議会 OB 会誌）への原稿を準備しており、そのタイトルは「温故創新 2024 未来への遺言」。AI（Chat-GPT）と共に、地球規模で考え地域から発信します。その内容は、1.人類の歴史に学ぶ戦争と平和 2.第二次大戦からの猛省 3.戦後 79 年終末時計 4.軍拡競争から核軍縮への道 5. 未来への希望（世界平和首長会議・世界連邦の建設）という大テーマであります。その心はシンプルで「この世をば、我が世とぞ思う人類の、欠けたることをありと思えば（一人のホモ・サピエンス月面より地球を眺め詠む）。私たちは今、このような時代に 82 億人の人類と共に、この母なる有限の地球に生きているからであります。

**編集委員：**坂口さん、お忙しい中対談のお時間を作ってくださり、どうもありがとうございました。心から感謝申し上げます。

### 【対談を終えて】

改めて坂口さんが西東京三田会や地域社会に尽力されてきたことを知りました。それだけではなく慶應義塾、西東京三田会、そして地域をととても愛していると感じました。また、広い視野と高い知見により、地球規模で考え地域から行動をしようとする漲るパワーを感じました。

私たちも地域社会に役立つ活動にも関心をもって取り組んでいきたいと思っています。



## 松江城・出雲大社観光

会員寄稿

6月29、30日の休日に通訳案内士研修の一環で島根県松江市・出雲市を観光することができました。通訳案内士の先輩（慶應でも先輩）で、地元の東京から松江市に転勤となった方が講師となり、島根県の2大人気スポットである松江城・出雲大社周辺を案内して頂きました。

私は島根県訪問は初めてでしたが、観光地としての島根県は、松江城や出雲大社といったメイン観光スポットが空港から遠い（バスで30～40分ほど）ということが訪日外国人が増えない理由の一つであり、今後の観光政策上の課題とのことです。

松江駅で集合し、まず訪れたのが松江城で、松江駅からは車で10分程です。梅雨の期間でしたが好天に恵まれ、天守閣から見える宍道湖などの眺望は素晴らしいものでした。松江城は国宝に指定されており、「江戸時代以前に建造されて現在でも天守が残っている12城」の一つということでも有名です。



翌日は「塩分を含む汽水湖。シジミが有名」である宍道湖畔を車で移動し、出雲大社を訪れました。出雲大社といえば、「古事記」にその創建の由縁が記されるほどの歴史があり、縁結びの神・福の神として有名であることは言うまでもありません。そして出雲大社のすぐ手前にあり、ガイドブックには掲載されていない人気スポットの一つに歌手・竹内まりやさん（慶応文学部中退）の



卸実家である「旅館・竹野屋」があります。そして竹内まりやさんが今夏の甲子園でベスト8に残った大社高校の卒業生であったこと、さらに竹内まりやさんの祖父の方が「大社高校野球部の設立（1901年）メンバーで主将」であったことは最近になって知りました。この研修時に地元の方が「島根県は高校数が少なく、甲子園ではさっぱり勝てない」という話をされたのを耳にしており、8月に大社高校が勝ち進んだ際に大応援団が球場に集まったことが話題になったときは、「長年の歴史の重みと地元愛」のようなものが他の地域と大きな差があるのではないかと感じていました。



その後、再び松江市に戻り訪れたのが「小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）記念館」と「史跡・小泉八雲旧居」です。小泉八雲氏は、「怪談」でも有名ですが、明治時代に日本の伝統や文化を海外に紹介したギリシア生まれの作家であり、松江市で日本女性と結婚して日本に帰化しています。その偉大な作家の作品や遺愛品が展示された記念館で、先輩の尽力もあり、小泉八雲氏の曾孫であり記念館の館長でもある小泉凡（ぼん）氏の直接のレクチャーを聴講することができました。小泉八雲氏は、現在の日本国内でも著名ではありますが、海外において「日本文化の紹介者」として愛好者が集まり、各地でイベントなどが開かれているそうです。

以上、たった二日間の滞在でしたが、関東では味わえない新鮮な魅力を堪能できました。

行田健二（H4経）





## 神宮野球応援(2024年秋季、立教戦)

会員寄稿

今年の秋季リーグ戦は立教戦で始まりましたが、初戦から延長戦で敗戦という苦しい立ち上がりになってしまい、私は翌日9月15日の第2戦を神宮観戦、声援してきました。

日曜ではありましたが、慶早戦ほどの混雑は無く、試合後の発表で観客は8,000人だったとのこと。

しかしながら30度を越える暑さの中での戦いは熱戦で、4回に慶應が先制し、5回に吉野選手の2ランホームランなどで中押しがあり、結果5対1での快勝でした。

この試合で四番であった清原一塁手、先発の広池投手、リリーフした前田投手らがこの試合で目立った活躍をしています、この三人ともに「父親がプロ野球選手」ということが大きな話題になっています。元西武・元巨人で、ほぼ毎試合ネット裏で

観戦している清原和博氏(57才)は有名ですが、広池投手の父親は元広島で248試合登板した広池浩司氏(51才)。前田投手の父親は、やはり広島で2,119安打を放った前田智徳氏(53才)です。さらには、この試合で立教の先発であった大越投手の父親は早稲田を中退してダイエー外野手となった大越基氏(53才)です。

4人のプロ野球選手が皆、自分と同世代であり、現役時代の活躍を見ていた選手であることに親近感を覚えるとともに強い情熱も感じます。

そしてここまで書いて、9月16日の第3戦をネット観戦しましたが、0-1での惨敗。リーグ戦開始1週目にして早くも勝ち点を献上してしまいました。素晴らしい戦力を十分に活かし、11月まで優勝争いに残ってほしいものです。

行田健二(H4経)







## 編集後記



大地震にも生き延びた 69 歳のその女性は昨日の豪雨により折角安らぎを見出した仮設住宅が床上浸水により泥だらけとなり片付けに取り組んでいました。

今朝のテレビニュースです。白髪ではあるもののインタビュー前半ではその表情に凛々しさ 強さを感じていました。しかしインタビューが進むに連れ内面の辛さが現れて涙声になりました。

『でもこの方はきっと乗り越える』そう願わずには居られません。

私自身はこの暑い暑い夏、彼方此方に暑さ逃れ旅行に行きましたが、運良く災害にあわず無事秋を迎えています。西東京三田会の皆様にはどの様な夏だったのでしょうか？毎日色々な事が起こりましたね。山あり谷あり。その中でみんな自分の生活を精一杯編んで前に進んでいるんだとニュースを見ると思います。

おお、そういえば私のこの夏の一大イベントをご紹介します！1950 年生まれの私に免許証更新の為に認知症検査が来ました。私は昔から意味のない事を記憶するのは苦手です。しかしこの認知症検査の中には「耳、オルガン、大砲、ラジオ、フライパン、タケノコ、、、」と言った関連性の薄い単語を 16 個その場で記憶して暫く後に思い出し記入するという問題があります。幸いこの短期記憶問題は定型化していて 16 個の単語が 4 パターンあるだけです。どれか 1 パターンが出ますので、16×4 で 64 個の単語をグループ分け記憶しておけば行ける！と思い耳から記憶した単語が出るくらい 1 週間それに費やしました。そして試験が始まり iPad にタッチペンでガァーっと 6 つくらいまで書いたら途中にも関わらず「合格です❀❀❀❀」と iPad 画面が出て、試験会場から 1 人外に誘導されました。退職後 久々に緊張感を持ち方針を決めてやっつけたと言うちょっとした達成感を味わいました😊😊😊😊(き)

### 編集委員

井上京子、丑山佐枝子、大内俊、行田健二、高橋幸三、森茂樹、横田均

令和 6 年 10 月 1 日